

JUSE-QCS

第120回品質管理シンポジウム(120QCS)

2025. 12/4Thu～12/6Sat

<https://www.juse.jp/qcs/>



顧客価値創造に対応する組織能力獲得に向けて『改善活動』を見直す
～環境変化、バリューチェーンの拡大、複雑化に伴う対応～

特別講演

南場 智子 氏
(株)ディー・エヌ・エー
代表取締役会長



基調講演

永田 靖 氏
早稲田大学
創造理工学部
経営システム工学科
教授



講演1

井上 祥 氏
(株)プリチストン
常務役員
Global CQMO・
品質経営管掌



講演2

仲二見 裕美 氏
旭化成(株)
品質保証担当
上席執行役員



講演3

河本 薫 氏
滋賀大学
データサイエンス学部
教授



講演4

山本 圭司 氏
トヨタ自動車(株)
デジタル情報通信本部
本部長



趣旨



永田 靖氏

早稲田大学 教授
第120回
品質管理シンポジウム
主担当組織委員

改善活動はTQM活動の中核です。すなわち、TQM活動がうまく進捗するためには、改善活動が適切に実施されなければなりません。

むかしと比較して改善活動はうまく推進できているでしょうか。うまく推進できているなら、その工夫は何でしょうか。うまく推進できていないならなぜでしょうか。

改善活動がうまく進まない、ないしは継続しない理由として、次の点がこれまで何回も指摘されてきました。

- ・ トップや上司のリーダーシップと意欲の問題、権限移譲の問題
- ・ 組織風土の問題、変化への抵抗感、失敗を恐れる風土
- ・ 人材不足、教育の問題
- ・ 携わっているメンバーの知識やノウハウ不足、情報共有の問題
- ・ リソース不足やリソース配分の問題
- ・ コミュニケーション不足(個人間、部門間の連携不足)
- ・ 課題の洗い出しが不十分(根本的問題の理解不足、現場の声が届かない)
- ・ 根本原因分析が不十分、対症療法にとどまっている
- ・ 目標が不明確(方針管理や日常管理に問題がある)
- ・ データ分析力が不十分

また、QCサークルはむかしと同様に活性化しているでしょうか。時代の変化に対応できているでしょうか。昨今の働き方改革の影響はどうでしょうか。企業側の支援は十分でしょうか。テーマが現場の課題から乖離していたり、グローバル化・多様化の中での活動が難しくなったりしていないでしょうか。

昨今問題視されている品質不正と改善活動の実力との関係はどうでしょうか。多くの品質不正はむかしから続いてきたものです。それは、実は、改善活動の実力がなかったからなのでしょう。それとも、品質不正は人間的な問題であって、改善活動とは関連がうすいのでしょうか。私は、改善活動の実力はあったし、それが高められてきたと信じています。一方、限界もあったのだと思います。その限界とは何でしょうか。

これらの状況を踏まえた上で、企業を取り巻く現在の環境を考慮すると、新たなキーワードとして「変化の激しい時代」「ビッグデータ」「AI」「働き方改革」「品質不正」「サステナビリティ」「改善活動の形骸化」「人材不足」などを取り上げて、改めて改善活動を議論する時期にあると考えます。

そこで、今回の品質管理シンポジウムでは、「経営における改善の位置づけとトップの役割」「方針管理と改善活動」「日常管理と改善活動」「品質不正と改善活動」「ビジネス変革の際の改善活動とTQM推進」「働き方改革と改善活動」「ビッグデータやAIを活用した改善活動」「改善活動を適切に実践できる人材育成」などに焦点を当てて議論を深めていきたいと考えます。その際、基本動作を重視すること、手段が目的化しないことも重要です。

そして、『令和の大宣言2023』の中で述べられている3つのプロセスのレベル「事業戦略策定のためのプロセス」「事業を遂行するための機能間連携プロセス」「具体的業務指示のためのプロセス」について検討したいと思います。さらに「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何かを追求したいと考えています。

プログラム

開催期日：2025年12月4日(木)～12月6日(土)
会場：大磯プリンスホテル

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。
※組織名・役職は2025年9月現在の表記になっております。

月日	時間	科目(講演テーマは仮)	講演者(敬称略)
12/4 (木)	19:00～20:10	〈特別講演〉日本のアップデートに挑戦するDeNA	南場 智子 (株)ディー・エヌ・エー 代表取締役会長
	20:10～20:30	質疑・応答	
	20:30～22:00	GD(1)、談話室	
12/5 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:40～9:10	〈基調講演・オリエンテーション〉組織能力獲得に向けて『改善活動』を見直す	永田 靖 早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授 (120QCS主担当組織委員)
	9:10～9:20	質疑・応答	
	9:20～9:25	入替(5分)	
	9:25～10:10	〈講演1〉ブリヂストン流DXを支えるソリューション品質管理の取り組み 「質を伴った成長」～Growth with Quality～	井上 祥 (株)ブリヂストン 常務役員 Global CQMO・品質経営管掌
	10:10～10:25	質疑・応答	
	10:25～10:35	休憩(10分)	
	10:35～11:20	〈講演2〉全員参加の品質経営の推進 ～あなたのお客様を感動させちゃおう～	仲二見 裕美 旭化成(株) 品質保証担当 上席執行役員
	11:20～11:35	質疑・応答	
	11:35～11:45	日科技連事業紹介	
	11:45～12:35	昼食休憩(50分)	
	12:35～13:20	〈講演3〉ビジネスで活躍するデータサイエンティストを育てる ～滋賀大学での教育の紹介～	河本 薫 滋賀大学 データサイエンス学部 教授
	13:20～13:35	質疑・応答	
	13:35～13:40	入替(5分)	
	13:40～14:25	〈講演4〉自動車における、データを起点とした価値創造	山本 圭司 トヨタ自動車(株) デジタル情報通信本部 本部長
14:25～14:40	質疑・応答		
14:40～15:00	GD会場へ移動・休憩(20分)		
15:00～18:30	GD(2)		
18:30～18:45	休憩(15分)		
18:45～19:45	夕食		
19:45～21:00	談話室		
12/6 (土)	8:30～10:00	GD報告(10分×8班 ※予備10分)	
	10:00～10:15	休憩	
	10:15～11:35	総合討論	司会: 永田 靖 報告: 各班リーダー
	11:35～11:50	第120回 品質管理シンポジウム まとめ	永田 靖
	11:50～12:00	次回(第121回)品質管理シンポジウム案内	121QCS主担当
12:00～	昼食・解散		

※GDはグループ討論の略です。

獲得に向けて『改善活動』を見直す ～環境変化、

講演概要

12/4 (木) 特別講演

日本のアップデートに挑戦する DeNA

南場 智子 氏

(株)ディー・エヌ・エー 代表取締役会長

インターネットの普及の波を捉えて立ち上がったDeNAは事業の製造業として常に新たな事業への挑戦を続けてきました。今、あの時以上の大きなAIの波を捉えようとしています。このうねりを捉えて発展するためのアプローチは、一つの事業に大きく張るのではなく試合の数を増やすこと、そしてそのためにも社内外の起業家の力をフルに活用することだと考えています。社内の人材に対しては囲い込むのではなく一人一人が社内で起業家であり続けられる一定の遠心力、社外の起業家に対してはDeNAを連携先として選んでいただける求心力が重要になると感じています。この社内の人材に対する遠心力と社外の起業家に対する求心力を生み出すための取り組みとDeNAがそのために大切にしている考え方をお話しします。



12/5 (金) 講演 2

全員参加の品質経営の推進 ～あなたのお客様を感動させちゃおう～ 仲二見 裕美 氏

旭化成(株) 品質保証担当 上席執行役員

旭化成グループは、品質活動は全員参加で取り組む活動と位置づけています。全員が「自分のお客様を理解し、自分の仕事の役割を理解し、その責任を果たし、良い仕事を渡す」ことが「旭化成の品質を高める」と考え、「全員参加の品質経営」を推進しています。経営層、リーダー、マネージャー、メンバーは、それぞれが、自分の役割を果たすことが重要です。そのための施策である人材育成、旭化成版タウンホールミーティング、「旭化成の現場の力を高める8か条」などについてご紹介いたします。



12/5 (金) 基調講演・オリエンテーション

組織能力獲得に向けて 『改善活動』を見直す

永田 靖 氏

早稲田大学
創造理工学部 経営システム工学科 教授

まず、工程能力指数について言及します。工程能力指数は改善活動の定量評価の定番です。また、私の研究テーマのひとつです。次に、改善活動に関連した識者の言葉を引用した上で、「これまでの改善活動」「これからの改善活動」について述べます。昨今の複雑で変化の激しい環境の中での「これからの改善活動」に関するキーワードをまとめます。さらに、今回のシンポジウムにおけるご講演を紹介し、最後に、各グループディスカッションのテーマや論点を確認し、議論の視点と方向性の共有を図ります。



12/5 (金) 講演 3

ビジネスで活躍するデータ サイエンティストを育てる ～滋賀大学での教育の紹介～

河本 薫 氏

滋賀大学
データサイエンス学部 教授

企業でデータサイエンティストとして働いてきた経験を踏まえ、大学で「ビジネスに役立つ人材を育てる」実学教育を追求してきました。方法論を習得しただけの人材はなぜ活躍できないのか、それに加えてどのような能力が求められるのか。こういった議論を踏まえて、学士教育において、従来の学究型教育とは一線を画し、企業連携型PBL (Project Based Learning) を主軸とした教育体系を編み出しました。本講演では、具体的な教育内容とその狙い、また、卒業生の活躍について説明したいと思います。



12/5 (金) 講演 1

ブリヂストン流DXを支える ソリューション品質管理の取り組み 「質を伴った成長」 ～Growth with Quality～

井上 祥 氏

(株)ブリヂストン 常務役員 Global CQMO
(Global Chief Quality Management Officer)・品質経営管掌

当社は2025年、変化をチャンスへ変え、激動下でも勝ち抜く強いブリヂストンへ進化、「質を伴った成長」(Growth with Quality)をグローバルへ拡大していきます。

「質を伴った成長」の基盤となるのは、当社が1960年代から推進している独自のデミング・プランの基本思想「良い品質の製品は、良い体質の会社から生まれる」に基づく体質改善の取り組みです。これは、強いリアルとデジタルを組み合わせたブリヂストン流DX全体の活動においても変えてはいけない基盤と考えています。

ブリヂストン流DXを支えるソリューション品質管理の取り組みでは、トラック・バス系ソリューション向けタイヤ遠隔モニタリング事例を取り上げます。従来の製品単品の品質保証から視野を広げて、運行の安心・安全を支えるタイヤメンテナンスのリアル品質管理と、データを価値に変えるプロセスを管理するデジタル品質管理とを組み合わせ、顧客価値実現に向けた現物現場の品質管理事例をご紹介します。



12/5 (金) 講演 4

自動車における、データを 起点とした価値創造

山本 圭司 氏

トヨタ自動車(株)
デジタル情報通信本部 本部長

IoTの進展に伴い、さまざまな業界において「OO as a Service」の形態が多様化しています。MaaS・SaaS・IaaSに加え、品質に焦点を当てたQaaSなどの新たなサービスも登場しており、これらの動きは、情報のデジタル化と流通、ICT環境の整備、そしてそれらを支える多様なプレイヤーの出現によって加速しています。

本稿では、自動車を取り巻く情報の属性を整理し、トヨタの「つながるクルマ」の歴史と現状を踏まえながら、製品開発や販売現場における情報活用の実態をご紹介します。特に、車両・ドライバー・環境に関する情報を統合的に把握することで、顧客との関係性をより深く理解し、接点の質を高める取り組みが進められています。今後は、データを起点とした価値創造が、顧客体験の多様化と深化を支える重要な要素となってくると考えられます。



120QCS グループ討論

GD テーマ、趣旨と論点

*敬称略

第1班

経営における改善の位置づけとトップの役割

安藤 之裕 ((一財)日本科学技術連盟 国際事業 参与), 岩佐 伸勝 (㈱ジーシー GQM推進室 室長)

適当な経営目標・戦略を設定し、達成し続けていくためには、経営トップのリーダーシップとコミットメントによって組織能力を高めることが必要です。その具体的な実践手段の一つが改善活動であり、品質不正の未然防止にも寄与するものです。「改善活動とは現場のみの取り組み」という誤解がありますが、経営者や管理者が行う経営上の意思決定においても、経験や勘だけに頼るのではなく、改善の手順や技法を活用することで、その質と成功の確率を高めることができます。方針管理を効果的・効率的に運用する鍵は体系的な改善活動ともいえるでしょう。第1班では、改めて経営における改善の位置づけを確認し、トップが果たすべき役割について議論します。

- 論点
- ① 経営における改善の位置づけ
 - ② 現場の改善を推進するためのトップの役割
 - ③ 「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

第2班

方針管理と改善活動

西 敏明 (岡山商科大学 経営学部 教授), 國遠 正章 (元 ㈱豊田自動織機)

方針管理と改善活動が整合していないと、活動全体がバラバラな方向に向かう可能性があります。その結果、無駄な活動や重複した活動が発生し、リソースと時間の浪費につながります。これらは従業員のモチベーションの低下となり、品質向上への意欲の低下を招きます。組織全体の品質目標を達成するための方針を策定・運用するためには、方針管理と改善活動の計画・実行・評価をどのように連携させるかが重要です。そのためには、組織全体で効果的に情報共有をする必要があります。変化が激しく、情報があふれかえっている現代では、いかに的確な情報をつかみ、それに基づいて適切な改善テーマを設定し、高速にPDCAを回していくことが大切です。また、サステナビリティへの配慮も必要です。そうすることで、方針と改善活動の一貫性を確保し、より効果的な品質向上を実現できると考えられます。第2班では、メンバーの所属する組織の具体例を持ち寄って、上記の観点を中心に議論します。

- 論点
- ① ビッグデータやAIを利用した的確な改善テーマの設定
 - ② 変化の激しい現代にサステナビリティにも配慮した方針管理と改善活動
 - ③ 「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

第3班

日常管理と改善活動

長塚 豪己 (中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授), 渡邊 克彦 (トヨタ自動車㈱ TQM推進部)

品質の確保には徹底した日常管理と十分な改善活動が必要です。日常管理が徹底されていないと品質のばらつきが生じます。改善活動が十分に行われないなら根本的な問題解決ができず、同じ品質問題が繰り返し発生します。同様の品質問題が常時発生していると現場のモチベーションは低下し、改善活動が形骸化します。この悪循環は顧客離脱を招く可能性があります。全社員が日常管理と改善活動に意欲的に取り組む必要があります。日常管理と改善活動を密接に連携させることが重要です。そのためには、日常管理活動で得られたデータを改善活動に活かす、改善活動で得られた成果を日常管理活動に反映する、そしてスパイラルアップするといった仕組みの構築が大切です。第3班では、従来から重視されている取り組みに加えて、ビッグデータ分析による品質問題の予兆発見と予防、AIによる作業手順書の生成・更新、環境負荷低減など、新たな取り組みの可能性についても議論します。

- 論点
- ① 日常管理において、「うまくいっていること」「うまくいっていないこと」
 - ② ビッグデータやAIを用いた新たな日常管理と改善活動の取り組み
 - ③ 「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

第4班

品質不正と改善活動

鬼頭 靖 ((一財)日本科学技術連盟 嘱託), 馬淵 和広 (㈱アイシン TQM推進部 部長)

改善活動の活発さと品質不正の発生に単純な因果関係は想定できないでしょう。しかし、改善活動が形骸化する職場では、品質不正が発生しやすいと想像できます。品質よりも利益や納期を優先するような組織文化は危険です。過度な改善目標や過剰な圧力、改善活動における情報共有の不備や意思決定の透明性の低さなどにより、改善活動自体が品質不正を誘発するリスクも理解する必要があります。データの整合性をチェックし、現場の声に耳を傾ける体制づくりなど、改善活動と品質不正防止を有機的に連携させる仕組みの構築と、現場だけではなく、活動を支援するスタッフや上司、関連部署による風土づくりと一人ひとりのマインドの醸成が重要です。第4班では、メンバーの所属する組織の具体例を持ち寄って、上記の観点を中心に議論します。

- 論点
- ① 改善活動と品質不正防止を有機的に連携させる仕組み
 - ② 品質不正を未然に防止するための風土づくりに必要なこと
 - ③ 「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

第5班

ビジネス変革の際の改善活動とTQM推進

竹本 康彦 (早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 教授), 原 和宏 (㈱ブリヂストン TQM推進部 部長)

現代のビジネス環境は変化が激しく、ボラタイルな状況にあり、従来の事業手法が通用しない場面に直面することがあります。そのため、製品品質などに関する着実な改善活動にとどまらず、従来のやり方を大きく変えたり、新たな仕組みを導入したりする必要があります。こうした環境変化を乗り越えることは、ビジネスの質を高め、顧客満足・業務効率・組織力のすべてに直結する重要な取り組みとなります。一方で、着実な改善活動では一定の成果が見込めるものの、変革を伴う大きな改善活動は必ずしも成果が保障されるわけではなく、リスクを伴います。本来の改善活動には、着実な改良を目指す取り組みと、革新的な改良やブレイクスルーを目指す取り組みの双方が含まれていました。第5班では、今後ますます変化の激しくなるビジネス環境を見据え、着実な改善と大きな改善の両面から、改善活動のあり方について意見を交わしていきます。

- 論点
- ① 現場の改良を目指した着実な改善活動の計画と取り組みのあり方
 - ② ビジネス変革の改善活動
 - ③ 「変えてはいけないもの」「変えなくてはならないもの」は何か

第6班

働き方改革と改善活動

鈴木 秀男 (慶應義塾大学 理工学部 教授), 梶原 千里 (静岡大学 情報学部 准教授)

働き方改革は、労働時間を短縮するだけでなく、仕事の仕方を抜本的に見直す取り組みです。改善活動(QCサークルを含む)にも様々な影響を与えられ考えられます。より影響として、労働時間短縮やフレックスタイムの導入などにより生じた時間の改善活動への活用や、オンライン活動により、場所や時間に縛られない柔軟な活動の実施が可能となります。一方、残業時間の規制による改善活動時間の確保の難しさや、オンライン活動では自由闊達な意見交換が阻害されるといった課題も見られます。これらを解決し、改善活動を効果的・効率的に行うためには、支援ツールの開発や活用、そして、従業員一人ひとりが主体的に改善活動に取り組める環境を整備することが大切です。第6班では、メンバーの所属する組織の具体例を持ち寄って、働き方改革が進む中での改善活動のあり方を議論します。

- 論点
- ① 働き方改革が改善活動に及ぼすメリットとデメリット
 - ② オンラインを利用した改善活動推進のためには何を整備すべきか
 - ③ 「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

第7班

ビッグデータやAIを活用した改善活動

森崎 修司 (名古屋大学 大学院 情報学研究所 准教授), 緒方 大記 (㈱ブリヂストン 新事業・ソリューション品質システム課)

変化の激しい現代において企業には品質管理のさらなる高度化が求められています。ビッグデータやAI(生成AIや認識AI)は、従来の改善活動手法を強力に支援し、新たな可能性を拓くツールとして注目されています。その際、どのような視点を持ってよいでしょうか。解決したい品質課題やその目標設定、分析可能なデータの収集方法、活用可能なデータ分析技術やAI技術、改善活動内容、導入・運用の課題と対策などが挙げられます。ビッグデータ・AI活用のメリットとしては、迅速な問題発見・解決、高度な分析と意思決定、業務効率化・コスト削減、新たなイノベーションの創出などが考えられます。一方、初期導入コスト、データ品質の確保、AI人材不足、倫理的な問題、システムの安全性の問題などの懸念点もあります。従来の改善活動手法との使い分けと融合も検討課題です。ビッグデータやAIは強力ですが万能ではありません。状況に応じて従来手法と組み合わせることで、効果的な改善活動を実現できると考えられます。第7班では、このような観点を中心に議論します。

- 論点
- ① ビッグデータ・AI活用シーンとメリットとデメリット
 - ② 従来の改善活動との融合と将来の改善活動の方向性
 - ③ 「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

第8班

改善活動を適切に実践できる人材育成

安井 清一 (東京理科大学 創域理工学部 経営システム工学科 准教授), 荻島 賢一 (コニカミノルタ㈱ 品質本部 品質保証企画部 シニアエキスパート)

改善活動を適切に実践していくためには、活動の考え方やスキルを持つことが必要です。そのためにも、まず、すべての階層の人たちに改善活動の意義を理解してもらうことが重要となります。そして、改善活動を実施するための方法を教育する必要があります。これまでは、例えば、QCサークル活動やスタッフによる改善活動、プロジェクト活動などの小集団活動が活動形式として位置づけられ、考え方や必要な方法論を階層別・機能別に教育し、OJTで実践してきました。しかし、世の中の変化が激しくなっています。大量なデータが存在する場合も多く、生成AIの出現もあります。品質不正も顕在化してきました。これらの経営活動に関する環境変化を受けて、改善活動を適切に実践できる人材像とそれを育成するための考え方や方法を再構築する必要があります。第8班では、改善活動を適切に実践できる人材育成について議論します。

- 論点
- ① 経営活動に関する環境変化(ビッグデータ、AI、DX、カーボンニュートラルへの対応、品質不正の顕在化等)を受けて、改善活動を適切に実践できる人材像
 - ② ①の人材像を育成するための考え方や方法
 - ③ 「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

※組織名・役職は2025年9月現在の表記になっております。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください！

※QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです。

- メリット1 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。
- メリット2 グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。
- メリット3 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員:1口につき年額221,100円(税込み) 団体会員:1口につき年額128,700円(税込み)

入会いただきますと

- 企業会員：無料参加枠2名(トップ枠・通常枠)を確保できます。
- 団体会員：無料参加枠1名(通常枠)を確保できます。
- 無料参加枠以外の方は特別価格(57,200円・税込み)でご参加いただけます。
- 本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2025年9月現在 五十音順 130社

1 アート金属工業(株)	35 コニカミノルタ(株)	67 中国化薬(株)	101(株)羽生田製作所
2(株)アーレスティ	36 小林製薬(株)	68(株)千代田グラビヤ	102(株)日立製作所
3(株)IHI	37(株)小松製作所	69 DMG森精機(株)	103 日野自動車(株)
4(株)アイシン	38(株)コロナ	70(株)テクノプロ	104 ヒロセ電機(株)
5 アイシン軽金属(株)	39 サンデン(株)	71(株)デンソー	105 富士フィルムビジネス イノベーション(株)
6 アイシンシロキ(株)	40(株)シーヴィテック	72(株)東海理化	106 富士フィルム マニュファクチャリング(株)
7 愛知製鋼(株)	41(株)GSユアサ	73(株)東陽テクニカ	107 富士電機(株)
8 アイホン(株)	42(株)ジーシー	74 東レ(株)	108 フジミエ研(株)
9(株)青山製作所	43(株)ジーシーデンタルプロダクツ	75 TOTO(株)	109 フタバ産業(株)
10 旭化成(株)	44 JFEスチール(株)	76(一社)富山県経営者協会	110(株)ブリヂストン
11(株)EARTHBRAIN	45(株)ジェイテクト	77 トヨタ自動車(株)	111 べんてる(株)
12 Astemo(株)	46(株)ジェイテクトエレクトロニクス	78 トヨタ自動車九州(株)	112(株)保志
13(株)麻生	47(株)ジェイテクト グライディングツール	79 トヨタ自動車北海道(株)	113 前田建設工業(株)
14(株)アドヴィックス	48 芝浦機械(株)	80(株)豊田自動織機	114(株)前田製作所
15(株)イシダ	49 清水建設(株)	81 トヨタ車体(株)	115 マツダ(株)
16 AGC(株)	50 JUKI(株)	82 トヨタ紡織(株)	116(株)マルヤスエンジニアリング
17 NECプラットフォームズ(株)	51 Sky(株)	83 トヨタ紡織滋賀(株)	117 三島食品(株)
18 NSKワーナー(株)	52(株)SUBARU	84 トヨタホーム(株)	118 三菱電機(株)
19(株)荏原製作所	53 住友理工(株)	85 ドリームベッド(株)	119(株)村田製作所
20(株)FTS	54 関工業(株)	86 長津工業(株)	120(株)メイドー
21(株)MCシステムズ	55 積水化学工業(株)	87(株)ニコン	121 名北工業(株)
22 エリーパワー(株)	56(株)セキソー	88 西田精機(株)	122 安川オートメーション・ ドライブ(株)
23 大塚化学(株)	57 ソニーセミコンダクタ ソリューションズ(株)	89 日華化学(株)	123 安川コントロール(株)
24 オークマ(株)	58 ダイキン工業(株)	90(株)日科技連出版社	124(株)安川電機
25(株)オテックス	59 ダイハツインフィニアース(株)	91 日産自動車(株)	125 UBE(株)
26 オムロン(株)	60 ダイハツ工業(株)	92 日産車体(株)	126 ユーロフィンFQL(株)
27 花王(株)	61(株)ダイヘン	93 日本インターグラフ(株)	127(株)ユニバンス
28 鹿島建設(株)	62 大豊精機(株)	94 日本精工(株)	128 楽天グループ(株)
29(有)企画システム コンサルティング	63 ダイヤモンドエレクトリック ホールディングス(株)	95 日本電気(株)	129(株)リコー
30(株)キャタラー	64 ダイヤモンド電子(株)	96(株)日本科学技術研修所	130 その他団体(1社)
31 京西テクノス(株)	65 大和リース(株)	97 日本商工会議所	
32(株)神戸製鋼所	66(株)竹中工務店	98 日本特殊陶業(株)	
33 コーセル(株)		99 パナソニックホールディングス(株)	
34 小島プレス工業(株)		100 パナソニックオペレーショナル エクセレンス(株)	

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

※組織名・役職は2025年9月現在の表記になっております。



田熊 範孝
日本電気(株)
Senior Advisor



永田 靖
早稲田大学
教授



宮本 眞志
トヨタ自動車(株)
カスタマーファースト
推進本部長



棟近 雅彦
早稲田大学
教授



森 雅彦
DMG森精機(株)
代表取締役社長



山田 秀
慶應義塾大学
教授

※品質管理シンポジウム(QCS)は、上記組織委員が持ち回りで各回QCSの主担当を務めます。

最近の主な講演者

※組織名・役職は講演当時の表記になっております。

第119回

第118回

第117回

第116回

第115回

第114回

第113回



安宅 和人氏
慶應義塾大学
環境情報学部 教授
LINE ヤフー(株)
シニアストラテジスト



鎌田 浩毅氏
京都大学
名誉教授



木目田 裕氏
西村あざひ法律事務所・
外国法共同事業
弁護士



桜井 博志氏
旭酒造(株)
会長



増本 陽秀氏
(株)麻生 飯塚病院
院長



藤井 保文氏
(株)ビービット
執行役員CCO
東アジア営業責任者



長谷部 佳宏氏
花王(株)
代表取締役
社長執行役員

参加要領

※詳細は、WEBサイト掲載の「開催要領」をご確認ください。

主催 一般財団法人 日本科学技術連盟

後援 一般社団法人 日本品質管理学会

開催日時 2025年12月4日(木) 19:00~12月6日(土) (12月4日受付開始 16:00~、夕食 17:00~)

会場 **大磯プリンスホテル** 〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546
TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281

参加対象 企業の役員、上級管理職の方々他
※今回のシンポジウムテーマ、グループ討論に深く関係のある部門とその役割を担うの方々のご参加については是非ご検討をお願いいたします。

参加方法
集合参加 現地(大磯プリンスホテル)にて、シンポジウム全プログラムにご参加可能です。
ライブ視聴参加 PC等で、特別講演(1日目)、基調講演・講演1~4(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)をご視聴いただけます。また、許諾のある講演、および3日目プログラム(GD報告・総合討論)については、シンポジウム終了後の特定期間限定で「見逃し配信」でご視聴いただけます。
特記: 1.ライブ視聴参加の場合は、GDへはご参加いただけません。
2.ライブ配信、見逃し配信の配信プラットフォーム、推奨環境はWEBサイトをご確認ください。

参加費(税込)
QCS企業会員・団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団体会員は通常枠1名分、の無料枠をご利用いただけます。※トップ枠をご利用されない場合、無料枠は「通常枠(1名分)」のみ。無料枠以外の参加は、参加方法にかかわらず、57,200円/1人の参加費を申し受けます。
一般参加 ライブ視聴参加のみ(132,000円/1人)
団体参加(ライブ視聴参加のみ) シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加(視聴)いただく場合にご利用しやすい参加形態です。
50名まで 550,000円、51~100名まで 880,000円、101~200名 1,100,000円、201名以上 要問合せ

参加費の請求書は、お申込み時のご連絡担当者様宛にEメール(PDF)にてお送りいたします。

その他
集合参加の付帯費用
・別途、大磯プリンスホテルでの宿泊費がかかります。
・宿泊費の請求書は、株式会社ジャパトラよりお申込み時のご連絡担当者様宛にEメール(PDF)にてお送りいたします。
・食事代(12月4日夕、12月5日朝・昼・夕、12月6日朝・昼)は宿泊費に含まれております。
・会場までの交通費はご自弁ください。

シンポジウム 申込方法

QCS専用WEBサイトからお申し込みください。

お申込みはこちらから <https://www.juse.jp/qcs/app/>

集合参加一次申込期日: 10月20日(月)

※会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことがありますので、お早めにお申し込みください。

- ・集合参加一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、引続き二次申込を実施します。
- ・ライブ視聴参加の申込締切は、11月13日(木)とさせていただきます。

お申込み
QRコード



シンポジウムに関する 問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング4階
TEL: 03-5990-5846 E-mail: qcs@juse.or.jp

宿泊に関する 問い合わせ先

株式会社ジャパトラ QCデスク 担当: 柏木・鶴川
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-21-1 NKフジビル8階
TEL: 03-6915-3646 E-mail: qcdesk@japatra.co.jp